

「リアル福島開催」、福島の今を見て感じ学び交流し歌を創ろう！

2022 全国創作講習会 in 福島ニュース 2022. 4. 24

日本のうたごえ全国協議会創作部会 東京都新宿区大久保 2-16-36 03-3200-0106

去年はコロナのために、初めてのオンライン開催！

今年はコロナ、ウクライナ危機を目の当たりに「リアル福島開催」！

原発事故から11年、福島の今を見て感じ学び交流し歌を創ろう！

創作はこうして日本のうたごえ運動を牽引してきました！

でも、まだ申し込みは数人、このままでは開催できません！

全国各地から、魅力的な講習会への参加運動を強めましょう！

5/13(金)オプションツアーは帰還困難区域に入ります

- ①帰還困難区域の浪江町津島地区に入り、国と東電を相手に裁判をたたかっている三瓶春江さんに案内をしていただきます。
- ②二本松市で有機農業をすすめる菅野正寿さんの案内で、天明の大飢饉で見捨てられた民の思いを伝える「為民の碑」から学び、浪江町から二本松市に避難している方や、ウクライナから二本松市に避難している方のお話を伺います。



幸せ合唱団福島ツアー2021年津島地区にて

5/14(土)山本さとしさんの講座をナマで聴こう

- ①山本さとしさんのライブ講座「心はふくしまと共に～今 わたしたちにできることは？～」**完全ライブで、オンライン配信はしますが、後で聞くことはできません。できれば、ぜひ、ナマで聞いてほしい！**

5/14(土)～15(日)実作、発表会

- ①オプションツアーで見たこと、感じたこと、そこでたたく人の思いから学び、いま、どうしても伝えたい「私たちのうた」を生みだそう。**創作部会のチューターがあなたの歌創りに寄り添い、歌が生まれる感動体験を味わいます。**

創作の歩みは止めない！

2年間続いたコロナ禍で、ほとんどの文化活動の練習や本番がストップする中、日本のうたごえの創作活動は止まらなかった。いや、コロナだからこそ見えた世界のこと、人間の姿、怒りや願いなど書きたいことは山ほどあった。コロナ下で創作活動が日本のうたごえ運動の歩みを止めず活性化させてきたことは重要な教訓です。

★現在、仙台高裁に対して「原状回復」を求めて裁判をたたかっている三瓶春江さんの思いを伺います！昨年、うたごえ新聞にも寄稿していただいたので、ぜひ、ご覧ください。



朽ち果てたご自宅で説明をされる三瓶春江さん



うたごえ新聞2021年7月12日号 三瓶春江さん

新聞 (第三種郵便物認可) 第2704号 (4)

福島第1 原発事故被災地から



＊愛知子どもの幸せと平和を願う合唱団は12月にミュージカル「バックトゥザ・フーちゃん」上演を予定。その台本作りで福島を訪れた同団藤村紀一郎さんら一行は、帰還困難区

▲裁判は7月30日判決。公正判決要求署名に取り組んでいる

村さんが三瓶さんに依頼した寄稿を紹介(福島に同行した赤木明絵さんの全国総会での発言、本紙4/24号、および季刊「日本のうたごえ」192号参照)。以下、三瓶さんの訴え

2011年3月11日、福島原発事故で、

あの日はず、(みぞれ)が降りはじめ雪となり、津島に避難された約1

知っていたはず。避難指示を出さず津島住民と避難者を切り捨てたと私は感じている。自分の子や家族たち、同じようにしたのだろうか。国は何を置いても強制的に避難指示を出すべきだったと思っている。安全

★署名用紙は下記からダウンロードお願いします。一ふるさとを返せ 津島原発訴訟「公正判決を求める署名活動への協力のお願」一津島原発訴訟弁護団 (tsuhimu-ganben.com)

まさか自分たちが避難をしなればならなくなるとは思わなかった。山ばかりで自慢するものと云えば四季折々の草木の鮮やかさ。そして、自然からの恵みの中で山菜やキノコといった数多くの宝の山々。その宝の山だった場所に降り注いだ高線量の放射線。今も手の施しようがないほどに放置されたまま。私達の大切なふるさとである津島になせ降り積もってしまったのか。

万人ともいわれている人たちは本当に耐え忍んでいた事だろう。そんな避難者を津島住民は見捨てる事などできるはずがない。温かい物を食べてもらい、暖を取る事を考え、避難者と共に行動していた。

この時の津島はもう高線量であることは東電も国もな対応を取って頂ければ私たちは国と闘う事などしなかっただろう。国民の命を守るために国や東電は出来る事すべてをやったと言えらるだろうか。その思いがあれば、原発事故を経験した避難者の声を聞くこととするはず。帰還困難区域として10年も放置し

たちがご案内すると、みなさん、声を合わせたように「ここに来なければ解らなかつた事がたくさんある。そして、原発避難者の方々の生のお話を聞く事が出来て良かった」と言われる。お互い心を繋ぐ事が出来たという思いをさせて頂ける瞬間だ。

福島の声をきいてください！

三瓶春江 (帰還困難区域津島原告団)

政府の方々には「原発事故が何を剥奪したのか、現地にきてご自分の事として考えて頂きたい」と心から願う。